

次号予告 2026 年 2 月号 Vol.33 No.2

[徹底分析シリーズ] 神経モニタリング

国立循環器病研究センター 輸血管理部/麻酔科 吉谷 健司

◆ 序論：これでいいのか神経モニタリング

新潟大学医歯学総合研究科 麻酔科学分野 古谷 健太

◆ 運動誘発電位・感覚誘発電位

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 中央手術部 臨床検査技師 高谷 恒範

◆ 多職種チーム医療としての神経モニタリング

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 川口 昌彦

◆ 脳神経外科と神経モニタリング

東北医科薬科大学 脳神経外科 佐々木 達也・遠藤 俊毅
東北医科薬科大学病院 臨床工学部 鷺谷 万葉

◆ 整形外科と神経モニタリング

関西医科大学 整形外科 安藤 宗治

◆ 血管外科と神経モニタリング

吉谷 健司

◆ 非中枢神経外科手術と術中神経モニタリング

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 林 浩伸

[症例カンファレンス] 重症循環器疾患を合併する患者の肺癌手術

症例提示 山形大学医学部 麻酔科学講座 成澤 あゆ香・松浦 優・外山 裕章
三井記念病院 麻酔科 竹内 純平・横塚 基
岡山大学学術研究院医療開発領域 周術期管理センター 清水 達彦
大阪はびきの医療センター 麻酔科 高内 裕司

[連載]

● こどものことをもっと知ろう
小児の胃腸炎

おかもと小児科・アレルギー科 岡本 光宏

● 今さら聞けない手術手技
後方経路腰椎椎体間固定術

星ヶ丘医療センター 整形外科 奥田 真也

● ちょっと拝見 となりのDAM カート
八戸赤十字病院の巻

八戸赤十字病院 麻酔科 山田 直人

● グリーン麻酔科医への道
三つのゴミ箱つくばみらい遠藤レディースクリニック 岡原 祥子
一般社団法人みどりのドクターズ 事務局メンバー

※誌面の都合により、内容は変わることがあります。

◆◆◆ our favorite ◆◆◆

多忙のあまり神経モニタリングに関心を向ける余裕がないとしても、術後に神経障害が起こったら? 「誰もやらないなら自分がやるよ」という流れから、十数年にもわたり神経モニタリングにかかわり続けている筆者が考える、「神経モニタリングを麻酔科医が担当する意義」に目を向けてほしいと思いました。(H)

専門的ですが、実践的にまとめているので、多くの麻酔科医にとおって学びが多いと思います。(E)

図がふんだんにあります。泣く泣くいくつか減らしました。(E)

いろいろ書くとネタバレしてしまうので……。

38 ページの予告編を読んで、ご自身だったらどうするかを考えておいてください。(E)

今月から新連載『グリーン麻酔科医への道』がスタートしました。2月号の「三つのゴミ箱」は、筆者がパースに留学して衝撃を受けた象徴的な事柄です。オーストラリア・パースと日本の環境問題への取り組み方、意識の違い、文化の違いがよく現れていると思います。(N)

読者アンケートから

2025 年 11 月号の徹底分析シリーズ「麻酔とテクノロジー」に対しては、いつになく具体的なコメントを多くいただきました。

- ◆ 機械学習やデータベースの活用を扱った野心的な企画でした。紙幅の都合で紹介程度に終わっているのは残念です。参考書籍を別項であげていただければ良かったです。
- ◆ 宮坂先生の文章があることで、企画がグッと引き締まった印象を受けた。やはり黎明期の麻酔科学を支えた先人のお言葉は深く、重い。心に留めておきたい。

- ◆ 冒頭の 2 編くらいで難しくついていけなくなり、他の項目にも目がいかなくなりました。きつといいことが書いてあるのだろうと思いつつも、ハードルが高かったです。
 - ◆ まさに研究や教育で悩んでいる、かゆいところに手がとどくような特集企画に深く感銘を覚えるとともにとても参考になりました。ありがとうございました。
- テクノロジーへの親和性は、振れ幅が大きいですね。「きつといいことが書いてあるのだろう」に、LiSA への愛情を感じました。